

想いをつなぐ

【発起人】

肴町商店街振興組合青年部(4S会)

齊藤 健吾 さん

肴町商店街振興組合青年部(4S会)は、肴町商店街を中心とした若手経営者や有志の集まりです。コロナ禍の影響により売上や来街者の減少はもちろん、各種イベントや催しの中止により、商店街を向上するための活動がやりたくてもできないといったジレンマを抱え精神的にも暗い影を落としていました。そんな状況だからこそ、日々の行動の中にクスリと笑いが生まれるエッセンスや、直接会わなくても人と人とがつながりを感じられる状況を作る事こそが、商店街の人々や来街者の気持ちを明るい方向へ導くことにつながるのではないかと感じています。

我が愛しの肴町



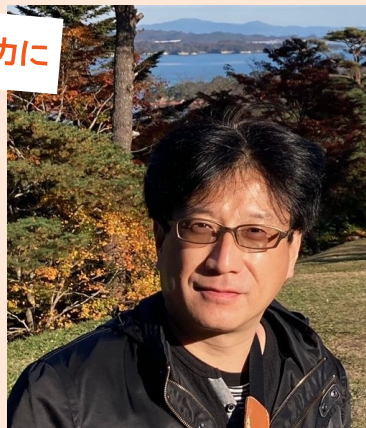
【プロジェクト 代表者】

岩手大学 人文社会科学部 人間文化課程

教授(デザイン学) 田中 隆充 さん

岩手大学では、令和元年度から肴町商店街においてデザインの力を活かした商店街の活性化に取り組んでいます。令和2年度は、「妖怪の足跡を路上に散りばめ、足跡をたどっていくとお店にたどり着く」という仕掛けをしました。この取組は好評でしたが、多くの人の視線が下に集まってしまったことが反省点にあげられました。そこで今回は、前を向いて、後ろを向いて、アーケードの全長約365m全部、楽しめるようにしました。こういった取組をすることで、地域の新しい魅力に気づいてほしいと願っています。

デザインの力を、まちの力に



【川柳毛筆書体デザイン&書道パフォーマンス】

岩手大学 人文社会科学部 芸術文化専修プログラム

書道研究室(3年)

普段の作品発表の場は展覧会なので、書を地域の活動に活かせるのは嬉しいです。セレモニーの直前には、書く時のタイミングを合わせるため、授業の合間に、みんなで集まって自主練習を行いました。今回のプロジェクトは、川柳を詠んだ方との共同作業になるので、川柳に込められた想いを表現できるよう、字体やバランスなどを工夫しています。お気に入りの作品に出会ってもらえると嬉しいです。

人とつながる書道



元気なコミュニティ特選団体



令和3年度新たに3団体が認定されました！

「元気なコミュニティ特選団体」とは？

人口減少・少子高齢化に向き合い、地域力の強化に取り組む県内のモデルとなる団体で、年1回、岩手県が選定しています。

対象となるのは、町内会・自治会などの地縁団体、特定の活動目的のために設立されたボランティア団体、NPO法人、地域づくり団体などです。

盛岡市では今回、中永井自治会、城南地区地域づくり委員会、(特非)いなほが認定され、合計で35団体となりました。ここでは、新たに認定された3団体の活動内容を紹介します。

中永井自治会



東京オリンピック・パラリンピックカナダチームへ歓迎のビデオレターを送りました。

新野球場の建設等による新たな賑わいをこれからのまちづくりに活かしながら、子どもたちの未来につながる活動として“市民協働でスポーツのまちを盛り上げる『盛岡南公園おもてなしプロジェクト』”を開始しています。

また、JR岩手飯岡駅西口を中心に、訪れた方々を気持ちよく迎ええられるよう、多様な世代とともに、花壇や沿道の環境整備を行っています。

城南地区地域づくり委員会



案内板のQRコードからアクセスし、盛岡弁による動画で各所の紹介を見て・聞くことができます。

地域活性化を図るため、地区住民が主体となり「城南地区地域づくり計画」を作成し、「古都の雰囲気(風情・賑わい・文化・心)を大事に活かすまちづくり」を目標に活動を進めています。

現在は、城南地区外の市民や旅行者、インターネットで城南地区の情報を入手した広範囲の人々が城南地区に関心を持ち、自ら訪れてくれる魅力ある地域づくりを重点とし、住民一体となって取組を進めています。

特定非営利活動法人いなほ



種まきから収穫まで自分たちで行い、コミュニティ食堂への食材提供を行っています。

「被災者支援」、「子ども支援」、「コミュニティ食堂」、「居住支援」の4つの事業を手掛け、人と人をつなぐ拠点となる居場所づくりを展開しています。

その中でもコミュニティ食堂は多種多様な人々が集まる場所として、世代間交流を始め、地域住民・企業・個人、性別の差などを気にせず食を通じて交流し、地域住民がホッとする居場所の提供を実現しています。